

じしんカンとは？

『地震は本当に怖い災害ですね！』

いつまでたっても地震予知関連の学術団体からの予知情報発信は無く、理学系の大学からの発表は事後の精査で予兆があったと繰り返すばかり。仮に予兆を捕捉していても、行政や報道の体制が適応できておらずアナウンスが行われぬことも考えられます。あとは個々が情報を積み上げる以外に方法はありません。

そして私たちが知りたいのは地震の総体よりも自分の居所が揺れるかどうかではないでしょうか。それも、30年以内に11%の確率とか言う他人事のような表現ではなく直前の警戒情報です。

自然環境の観察で予兆現象が多々報告されていますが、個々が自然観察を継続するのは困難です。そこで一般的な家庭環境でも大地震の直前兆候を知覚化するために開発するに至ったわけです。

じしんカンの開発を意図したのは東日本大震災のときでした。

2011年3月10日の夜、就寝のため22時頃に消灯後、台所で聞きなれない音がするので調べましたが実体が無く、空間に音源があるようでした。

本震災に改めて考えてみて、生活環境に常駐する低周波音（定在波）と震源域で発生し岩盤中を伝播してきた低周波音が空間で共鳴して「うなり」が発生し倍音が聞こえたと考えるのが妥当と結論づけました。



じしんカンはこの推論をもとに家庭環境でのご使用に余計な負担のない理科実験器具に仕上げています。

「うなり」の観測から揺れの発生までの時間は諸条件により幅があります。

【具体的な例】（この器具ではなく自宅の環境において聴感上で確認できた「うなり」による）

2011年3月11日 東日本大震災 17時間 / 2011年3月10日 22時検知 海域型

2011年7月15日 茨城県南部地震 66時間 / 2011年7月13日 3時検知 陸域型

ただし、注意して観察していただかないとわかりづらい小さな音です。

検知能力も低周波音の発生・伝播が確実とは言い切れないので保証はできません。

可聴な「うなり」が発生するほどの高エネルギーの低周波音が到来するときは、生命・財産が危機にさらされるほどの巨大な歪が蓄積されている場合で、「こわかったね！」で済む程度の地震の直前兆候は検知できないと想定しています。

じしんカンは完結した検知器ではなく、主体者の観察・考察を補助する理科実験器具です。

じしんカンが物理学の原理に基づいて製作されています。

じしんカンの原理をご理解いただける方々におきましてはチューニングの余地もまだまだあるかと思えます。

じしんカンの筐体はエコな再利用品なので、個々に小キズや小さな汚れがあることをご了承ください。

開発:ingenious farm 代表者:岩坂 一尋

URL:<http://www.ingenious-farm.jp/>